

平成24年度 第2回 豊田市行政経営懇話会 会議録

【日時】 平成24年11月19日（月）午後3時00分～午後5時00分

【場所】 豊田市役所南74委員会室（南庁舎7階）

【出席者】（委員） 足立 潔重 （連合愛知豊田地域協議会副代表）
宇野 幸伸 （あいち豊田農業協同組合代表理事専務）
小幡 哲生 （豊田青年会議所理事長）
澤田 恵美子 （豊田市消費者グループ連絡会会長）
清水 元久 （豊田市森林組合代表理事組合長）
田端 稔 （豊田商工会議所副会頭）
千葉 晃嗣 （豊田市ボランティア連絡協議会監事）
星山 いく子 （市民公募委員（株）アンジュクール代表取締役）
三崎 祐子 （豊田市ファミリー・サービス・クラブ会長）
山崎 丈夫 （愛知学泉大学附属コミュニティ政策研究所
客員研究員）《会長》

（計12人）

【欠席者】（委員） 加藤 淳治 （豊田市区長会副会長兼会計）
杉山 恵美 （豊田市国際交流協会
ボランティアグループひらがなういずゆー）
村林 聖子 （愛知学泉大学現代マネジメント学部准教授）
南里 匡一 （豊田市PTA連絡協議会副会長）
西原 香保里 （愛知みずほ大学人間科学部教授）

【事務局】 安田 明弘 （総合企画部調整監）
前田 雄治 （総合企画部専門監）
水野 智弘 （総合企画部企画課長）
佐藤 英之 （総合企画部企画課副主幹）
折原 亜矢子 （総合企画部企画課主事）

【次第】 1 開会
2 事務局あいさつ
3 会長あいさつ
4 議事（仮）第2次まちづくり基本条例戦略プランの策定について【協議】

【総合企画部長あいさつ】

- ・ 本日の議題は、(仮)第2次まちづくり基本条例戦略プランの柱立てや行動計画といった具体的な内容についてです。
- ・ 第7次総合計画の後期実践計画についても、パブリックコメントを実施し、策定に向けた作業をしていますが、この戦略プランは豊田市のまちづくりの方向性を定める総合計画と両輪となるような位置づけです。専門的な立場から、また生活者の視点から十分ご議論いただき、熟度の高いものにしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【会長あいさつ】

- ・ 前回の懇話会では方向性についてでしたが、今回の議題は、プランの柱立てや行動計画といった具体的な内容についてです。活発なご議論をお願いします。

【議事(1)】

○会長

- ・ 全体としての4つの柱やそれにもとづく戦略方針について、質問なども含めて自由に意見をお願いします。

○委員

- ・ 「市民目線」とはなんですか。どうしてもすぐに「市民目線」と出てきますが、定義がよく分かりません。

○事務局

- ・ 市としては、市の立場で責任を持って決めていくわけですが、審議会は多様な人の意見を積み上げていく場であると考えています。その過程については情報公開で公表していきます。皆様の色々な立場から思ったことを言っていただければと思います。

○委員

- ・ 「地域経営体」とは何を目指しているのかを教えてください。

○事務局

- ・ 市としては、きちんと仕事をしていきますが、それ以外に市民の方の色々な活動があって初めて豊田市はよくなっていくと考えています。行政で我々がやることと、市民の皆さんがやることをあわせて、行政と市民の皆さんで地域を経営する視点に立って、我々が仕事をしていくという考えです。
- ・ 現在の行政経営システムの中では行政の取組だけが出てきていますが、地域経営といった場合には、すごくたくさんの市民の方の活動の一部が何らかの形で計画の中に入れられればと思っています。

○委員

- ・ そのようなことが行政に反映されるのでしょうか。

○事務局

- ・ 自由な市民の活動と、行政の活動があいまっていいことができると思います。

○委員

- ・ 4つの柱立ては市民に公表していくのでしょうか。4つの柱の中で全体を通じて「市民との共働」の考えがあると思いますが、市民を大切にするなどの表現が足りないと思います。特に、2つめの「洗練された豊田市役所品質の確立」という表現が非常にわかりにくいです。戦略方針や行動計画を見れば若干は分かりますが、柱立ての表現だけではそのようなことが見て取れないのが残念です。

○事務局

- ・ 「洗練された」というのは、もう少し高みを目指していきたいという意味での表現です

が、市民から見て分かりづらいようであれば、表現としては再考する必要があると思います。

- ・ 4つの柱のうち1番目の「共働」以外は行政の取組についてどこをめざしているのかを表現していますが、イメージしやすい表現について考えていくべきだと考えます。

○委員

- ・ 「市民目線」という話題に戻りますが、市民を大切にしているというような意味を含めているといいと思います。

○委員

- ・ 「大転換の新しい時代を見据えた戦略性の確保」とはどういったことでしょうか。まず、大転換とはどういうことを言っているかを表現し、それに対する戦略はどうあるべきかの文章に変えると良いです。

○事務局

- ・ 「大転換の時代」というのがイメージしづらいかもしれません。お手元の第7次総合計画後期実践計画のパブリックコメントの概要資料をご覧ください。総合計画が始まった平成20年当時、少子高齢化や人口減少社会、経済を取り巻く社会環境の変化等の課題認識がありましたが、リーマンショックから始まる世界同時不況や急激な円高、東日本大震災をきっかけとし、その課題が現在更に顕著となっています。そういうところが、今回のプランを策定するうえでの社会の動き、大転換の動きだと認識しています。そのような先行き不透明な社会において、私たちがどのように迅速に柔軟に対応していくか、なおかつ戦略として、組織や仕事の進め方の評価について、落としていきたいという思いがあります。
- ・ 市役所の仕事には長期的な仕事が多く、例えば公共施設については50年以上先を目指していくものもあります。これまでは、ある程度右肩上がりや将来の展望が見えていたものが、現在は先行き不透明感の中で事業を立てる必要が出てきました。その中で、従来型ではない思考を持ちましょうという警鐘の意味もあると考えます。

○委員

- ・ 行政がこういうものをまとめると、本当に難しい表現をされるので、一般市民の人は絶対に分からないと思います。例えば、カタカナの言葉がよく出てきますが、日本語を使って分かりやすく表現すべきです。
- ・ 今「大転換」について話がありました。市長のお話の中にもよく入っていますし、市長の想いも入っていると重いますが、今説明を聞いて分かりましたが、もうちょっと一般市民にわかると良いと思います。それが「市民目線」であると思います。

○事務局

- ・ こういったものは、パブリックコメントを実施した際にも分かりにくいとご意見をいただけないこともありますから、もう少し考えたいと思います。

○委員

- ・ 特にパブリックコメントは、意見をもらうのですから、市民が理解できる言葉でないと答えがもらえないと思います。

○委員

- ・ 全体でいうとすばらしい案だと思いましたが、「市民目線」というところを間違えてしまうと、うまく進まないように思います。戦略プランを見ると、市民志向、成果志向、現場主義といったように、いかに民間に近づけるかということを進めていこうとしています。市民の税金等の限界が色々あると思います。あまり市民の目線を意識しすぎると進むものも進まないのので、「市民目線」ということをしっかり定義した方がよいと思いました。

○事務局

- ・ 行政の仕事は、法律では市長が決定することと議会が決定することの2つが定められています。その中で、議会を通ればいいという仕事もありましたが、パブリックコメントのように情報をできるだけオープンにして意見をもらったうえで、最終的には市民に選ばれた市長と議会が決めるというようになっています。そこで、どこまで「市民目線」に縛られるかということはあるかもしれません。
- ・ 「市民目線」ということに定義は特にはないと思いますが、例えばこのたたき台についても、行政が作った独りよがりの資料です。そこを、行政でない人からの意見を知りたい。今回、色々な組織から出ていただいています、その目線から、生活者の目線、家庭や地域からの視点、納税者としての意見など、行政でない立場からの意見をいただいて、独りよがりの変革にならないようにしたいと思っています。

○委員長

- ・ 最初は行政運営体から行政経営体へ、そして今回は地域経営体という形で豊田市の行政を動かしていくというめざす方向性がある中で、4つの柱の立て方、指針について意見をお願いします。まず、第1の柱である「共働」の部分についていかがですか。

○委員

- ・ 豊田市ではあえて「共働」という言葉を使っていますが、この言葉は一市民として普通の人と話をしたときには「共同」という言葉をイメージしてしまう。戦略方針の「共働に関する市民意識の醸成」というところを見て、市民の中にこの言葉はどの程度浸透しているのかなということを思いました。

○事務局

- ・ 豊田市の「共働によるまちづくり」では、A～Eの5つの区分を定義しています。普通「協働」というと、市役所と市民と一緒に協力をしながらやっていく部分を指していて、区分でいうとB～Dがそれにあたります。それに対して「共働」という考え方を作ったのは、市民の方が行っている自由な活動があって、行政と直接接点がない場合や、行政と方針が違う場合も、そのような活動があって豊田市が成り立っているという認識からです。思想のような、哲学のようなことかもしれませんが、豊田市の「共働によるまちづくり」はこのような考えです。また、行政が市民の活動分野に手を出しすぎたり、市民が行政に頼りすぎたりしないように、互いの活動分野をしっかりと幅広く捉えていきたいという思いもあります。
- ・ しかし、市民の方にどれだけ浸透したかはなかなか難しいところです。良くご存知の方は理念を知っていただけるし、ご存知ない方にとってはなじみがないのが現実だと思います。

○委員

- ・ それを踏まえてきっと「共働に関する市民意識の醸成」があるんですね。

○事務局

- ・ そうです。昨年度、共働に関するシンポジウムを開き、これまでの取組みの総括をしましたが、知っている人はそこから自分で動いていただいています、まだまだ広がりも弱いと感じています。そういったことから、地域経営という考えを進めるためにはPRが重要だと感じています。

○委員

- ・ この資料を見ていて、1番目の柱の「共働」の部分はすごく分かりやすいのですが、2番目からの柱立ては、やることはわかるのですが、まちづくりとイコールになっていなく、理解できませんでした。
- ・ 私は資料を頂いて、まちづくりを進めるためにも市役所の内部を変えていくということ

が書いてあったので理解ができますが、市民が一目見たときに果たして分かるのかと思いました。市役所よがりになっている気がします。

○委員

- ・ これを市民の人に分かってもらうには、例えばひまわりネットワークで流す等して、市民を啓蒙しないといけないと思います。誰でも分かるような形に変えて、しばしば情報提供をすることで、理解が進むと思います。

○事務局

- ・ 例えば、後期実践計画は実際に市が行う事業の話なので、理解がしやすいですが、こちらのプランは市役所の仕事の進め方なので、非常に分かりにくくなると思います。
- ・ これまでは、市役所を変える、職員を変える、ということでやってきましたが、今回、地域経営ということで「共働」を一番重視し、今まで以上に市民の方を巻き込もうとしているので、「共働」を一番上にもってきました。結果として、市役所の内部の話は、まちづくりというネーミングからすると理解がしにくく、「共働」の部分は理解しやすいという感想になったのだと思います。言葉については、色々ご意見をいただいたので、つめていこうと思っています。

○委員

- ・ このプランや後期実践計画の中にある事務事業や制度が市民に浸透してきたときに、豊田市は「共働」を大切にしているということ、市民の皆さんが実感できればと思います。戦略プランが内向きの話であるならなおさら都市の中に「共働」をしっかり根付かせることが見えると良いです。その点で、戦略プランの中のどこでそれを強く打っているかということ、少し弱い気がします。そういった意味で、4つの柱立てのやり方に違和感があるのかなと思います。

○委員長

- ・ 行動計画について、色々な組織が新しく内部で作られていくといったことが挙げられていますが、そのあたりについてはいかがですか。

○委員

- ・ まずは、今の組織で十分かということかと思いますが。今の組織で十分なら、それを進化させるべきです。不十分であるならばどの部分が不十分か、そのあたりを見極めて、本当に核心のものだけをつくるべきです。
- ・ 例えば、豊田マラソンで60歳以上の方が走っていてびっくりしましたが、あのよう高齢者が健康を維持するということは、社会保障費の削減につながる。そういう意味での「共働」もあると思います。そういったことが必要だという話になって、もっと市役所も一緒になってやっていくということがあれば、組織も必要だということになってきます。そうやって、本当に必要な組織は何か見極めるべきです。

○事務局

- ・ 市役所の組織のことを言うと、大掛かりな組織改革をして十数年経っており、今の状況からすると変えたほうが良いことも一部あります。共働に関することは、平成17年度以降に始まってきたことですので、新たな状況に応じて作ろうという理解です。

○委員

- ・ 第1の柱の「市民との共働」「市民力・地域力・企業力の活用」という表現を見ると、市役所が市民を振り回して使っていくような意味合いに感じます。

○事務局

- ・ その点については、再考します。

○委員

- ・ 行動計画の「地域会議の地域合意に関する仕組みづくり」について、こういったことを

行うときにはリーダーの育成がとっても難しくなると思いますが、そのあたりの市の考えはいかがでしょうか。また、女性職員の育成についてはどのような状況ですか。

○事務局

- ・ 地域のリーダーについての取組としては、市民活動の計画の中でもその重要性は認識しているところです。
- ・ 女性職員の育成については、順次登用は進めているところです。数はまだまだですが、それ以外に女性職員のステップアップ計画というものを定めて進めています。

○委員

- ・ 地域会議等の会議体でも、内容を見てみるとほとんどが男性の方のように感じます。やはり、共働という観点からの女性と男性のバランスが取れた中での議論をしていただきたいです。

○事務局

- ・ 付属機関については、3割以上はどちらかを確保するという考え方がありますが、実現できていない部分もあり、課題だと認識しています。
- ・ 職員については、採用自体は半分半分でありますし、人事で育成の取組を行っているので、近い将来この席に女性が並ぶことになろうかと思えます。

(終 了)